
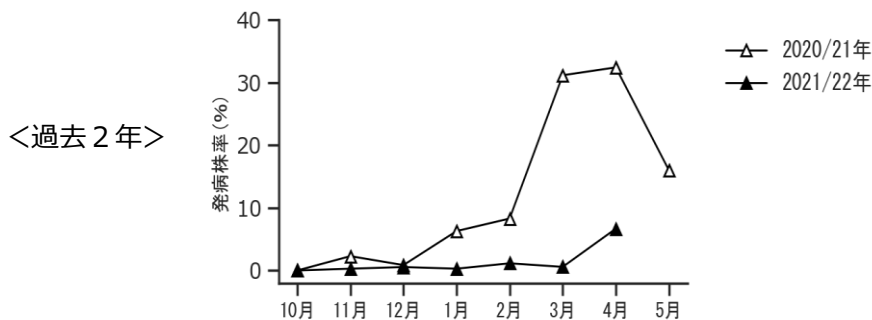
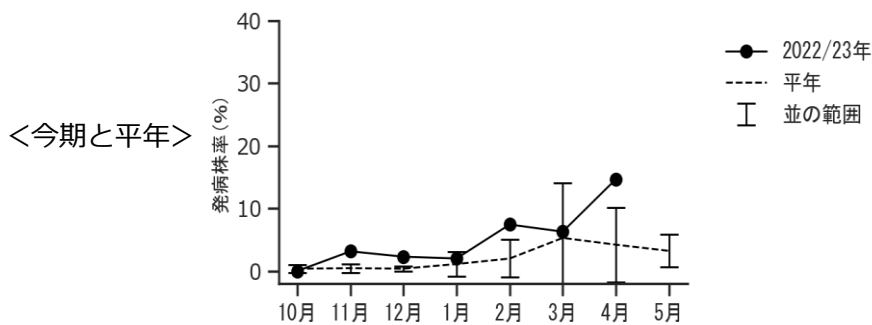


作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	黄化葉巻病		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
予 報	4 月からの増減傾向	↓	
	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果


発病株率の推移



・発生施設率100% (平年 : 39.6%)

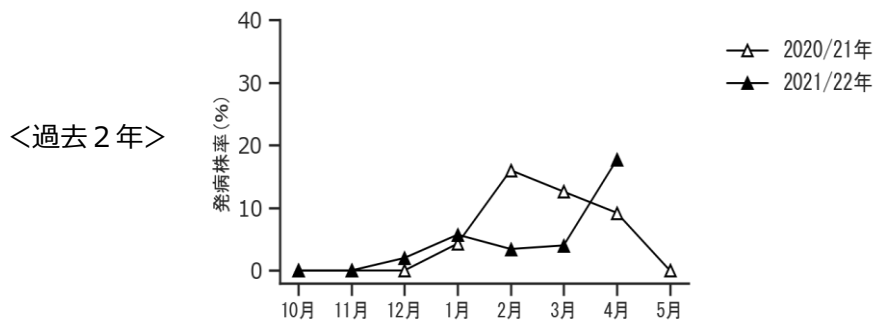
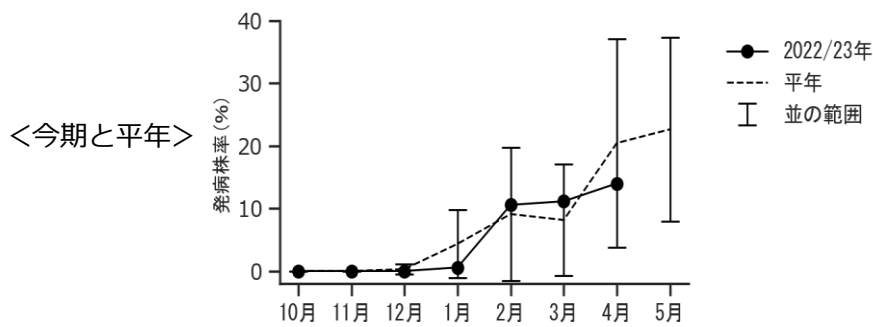
防除のポイント

- ・媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
- ・罹病株や摘葉残さは伝染源となるため、施設外に持ち出しビニール袋に入れるなどして密閉処分する。
- ・ムラサキカタバミやノゲシ等の雑草は本病に感染し、次期作の伝染源となるため除去する。

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

発病株率の推移



・発生施設率33.3% (平年 : 45.3%)

防除のポイント

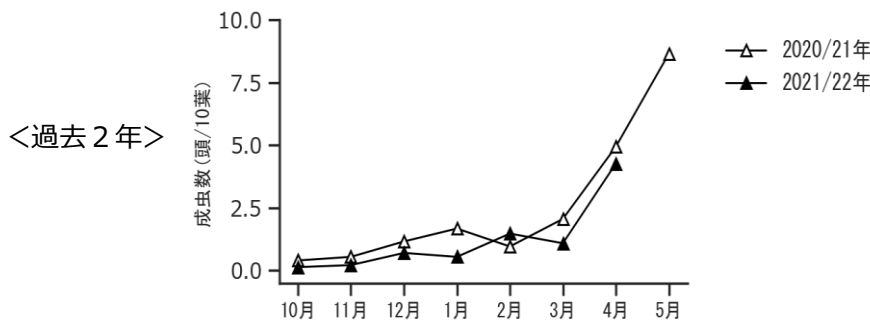
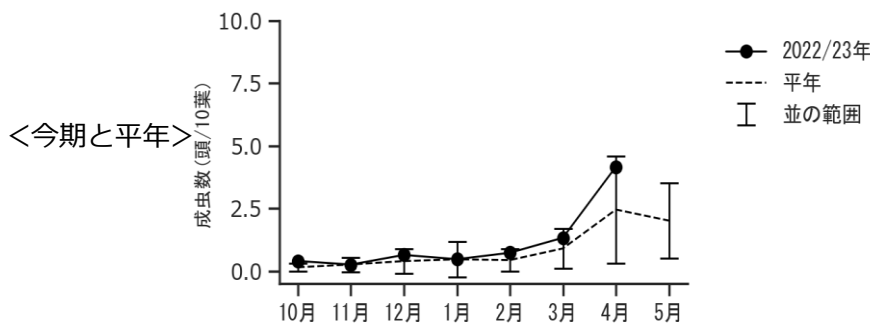
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・通風が悪いときに多発しやすいので、老葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↓	
	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	



調査結果

成虫数の推移



・発生施設率100% (平年 : 66.0%)

防除のポイント


- ・本種はトマト黄化葉巻ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、

成虫の侵入を防ぐ

- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

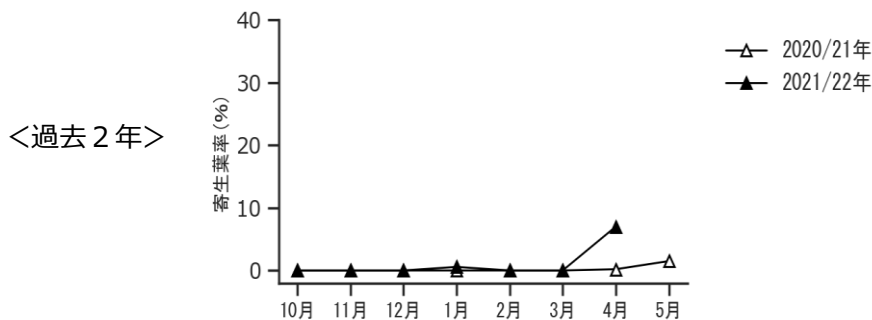
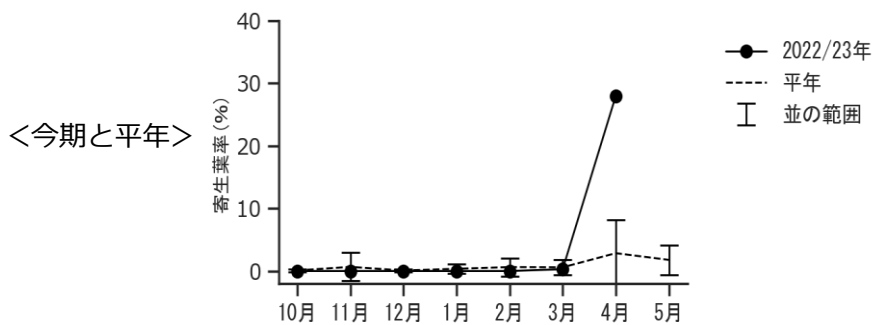


幼虫

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	4 月からの増減傾向	→	
	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

寄生葉率の推移



・発生施設率66.7% (平年：26.4%)、一部施設で多発

防除のポイント

- ・摘葉等による残さは発生源となるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・本種は多数の在来天敵が存在することから、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・幼虫期間が比較的に短いため、葉の表面に産卵痕や食害痕がみられたら防除を開始する。
- ・農薬やその他の防除資材の効果は幼虫の体色で判定する。生存時の幼虫の体色は黄色で、死亡すると黒色に変化する。



幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)